平成 30 年度地域自立支援協議会交流会（全体会①）

ミニシンポジウム（概要）

「協議会であがった課題はどこに行ってしまうのか
～自立支援協議会本来の役割～」

座　長
東京都自立支援協議会　会長　岩本　操氏
（武蔵野大学人間科学部人間科学科　教授）

シンポジスト
東京都自立支援協議会　副会長　海老原　宏美氏
（特定非営利活動法人自立生活センター・東大和　理事長）

東京都自立支援協議会　委員　清家　政江氏
（社会福祉法人 JHC 板橋会障害者就業・生活支援センター
ワーキングトライ　センター長）

【現状報告】

➢東大和市地域自立支援協議会について（海老原副会長）

- 東大和市地域自立支援協議会は、全体会の他に、生活部会、就労部会、相談部会、防災・防犯部会という構成になっている。
- 部会活動は、毎月又は２か月に１回集まって、様々な活動をして盛りあがっているが、その中から地域課題を集約していくまでには至らないという実感がある。
- また、どうせお金も無いし、資源も無いからできないでしょうと思ってしまっている課題というのは、課題としてすらあがってこないという現実もある。
- 年４回やっている全体会でも、課題についてというテーマでじっくり議論する時間が取れていないというのが現在の課題
- 課題をあげていく力とか、その課題を議論する時間とか、場とか、そういう仕組み作りがこれから必要というのが東大和市の課題

➢板橋区地域自立支援協議会について（清家委員）

- 板橋区地域自立支援協議会は、本会があり、連絡調整役の事務局があって、その下の定例部会としては、相談支援部会、障がい児部会、障がい当事者部会、就労支援部会、高次脳機能障がい部会、権利擁護部会の６つの部会がある。
- 本会は、年３回程度開催していて板橋区における障がい福祉に関する仕組み作りの中核的な役割がある。定例部会はテーマごとに開催され、関係機関との連絡調

整、情報交換、地域課題の共有、協働の確認、人材の資質向上を図るなどの活動計画、実践報告を本会へあげている。それが実際、板橋区の施策の中にどう組み込まれていくとか、地域の課題が区全体として今度それをどうしていくか、ということがなかなか進まないというところで、部会が試行錯誤しているというのが現状

- かなり組織的に活動している相談支援部会では、地域の現場の中でいろいろな活動、相談支援をしている人たちの集まりがそれぞれあって、そこからいろいろな地域課題があがってくる。それを相談支援部会にポンと出すのではなく、今、地域はどんな状況になっているのか準備会の中で一度きちんと整理して、この整理をもって相談支援部会の検討の中にあげていくという流れが成り立っている。相談支援部会では、喧々諤々と話し合ったところを報告という形ではなく、提言として本会の方にあげていく。本会の中で、具体化されるというのは一長一短にいかない。でもその意見、こういうことが必要だと、意見をあげ続けていくことがすごく大事
- 就労支援部会は部会の下に就労移行支援事業所の小さな会を作っているが、それと同時に本来であれば板橋区の就労継続支援 A 型、B 型、移行、そして就労支援センター全体の会があってもいいのではないかというのを部会の中であげてきても中々具体化されなかったという経過がある。ではその下地を作ろうという形で、今、もっと現場のところでその下地を作っていろいろな連携であったり、情報交換の場であったり、学習の場を作って活動している。その部会をいかに次のステップにあげていくかという形で、組織を作って活動している。

➢武蔵野市地域自立支援協議会実践例（岩本会長）

- 武蔵野市の協議会の特徴は３つ。まず協議会全体として、専門部会を通してテーマ設定ということを重視して、協議会全体として何を目指すのかという理念というところ。２番目は、自立支援協議会が障害者計画・障害福祉計画の策定委員を兼ねているということで一体化しているところ。それから障害当事者部会が非常に活発に活動しているという３点。
- 武蔵野市も５つの専門部会を置いているが、部会の活動が活発になればなるほど横が見えなくなるという課題はあったと思う。
- 親会という本会議は年５、６回やっていて、１４名の委員が各専門部会にそれぞれ担当で入る。部会の部会長、副部会長は親会以外の人がなるということで、部会長、副部会長と親会の委員が連携しながら、他の部会のメンバーと活動している。専門部会は月１回ぐらいで活動しているということで、各部会非常に熱心に活動している。
- 障害当事者部会がいろんなものを繋いでくれる役割を担っていて、部会間の連携

もすごく促進されてきていると思っている。

- 障害当事者部会が月１回いろいろな旬なテーマで話をしているが、この障害当事者部会というのは広く広報などで趣旨に賛同してくださる当事者の方が集まって構成されている。そして、障害当事者部会のメンバーが各部会に派遣されるということで、障害当事者部会が一番全部の活動を知っている。また、障害当事者部会の代表は親会のメンバーになっているというところが要で、武蔵野市の特徴だと思う。
- もう１つ、障害者計画・障害福祉計画の策定委員をこの親会の１４名の委員が兼ねるという形。計画策定にいろいろ意見を言うと、この計画を実施、遂行していく責任もあるということで、この PDCA の機能を協議会としてどういうふうに動かしていくかということが課題となっている。計画の策定と実行と点検と改善という中でいろいろな地域の課題ということも動いていく訳だが、３年に１回の計画なので忙しい。どんどん動いていくサイクルに入って、ここにあがってこない日常的な身近な課題というのがおそらく結構あって、そこにちゃんと目が行っているかなということが１点。それから、やはり協議会が地域課題というものを抽出して、それを改善に向けて働きかけていくという、そういった機能というか役割というものをどういうふうに計画の策定に繋げていくのかというのを、これまで活動している中で考えている。

【グループ討議の進め方】

（岩本会長）

- 個別の課題がいろいろある中でそれが地域課題にあがっていくには、それが課題だということを共感したり共有したりという人を増やしていかないとならない。それぞれが思っていることをみんなの課題としていけるかというようなサイクルも必要
- 地域課題にあがったらこれは具体的に協議して、それで部会でできることも沢山あるし、結構やっていると思う。部会でできること、部会を越えて全体でやること、あとは行政でやること、他の自治体と一緒に協力してやっていくことなどがある。そういった中でまた個別の課題が見えてくるという、サイクルがあると思う。
- 協議会であがった課題がどこに行ってしまうのかと言ったときに、このサイクルの何かが機能していないのかな、うまく動いていないのかなというのが自治体ごとにあるのではないか、機能しているところもあれば、ここがどうも滞っているというか、詰まっているというか、そういうことがある。どこを工夫強化することで、次に進めるのか、他の自治体の取組を聞きながら自分たちの協議会の特徴を確認し、ヒントを探していただきたい。

- 最初のグループ討議は、質疑応答と意見交換で他の自治体の特徴や工夫点を聞き合う、個別課題から地域課題で問題解決を促進するポイントや留意点を考える。それから自治体ごとにいろいろ個性があるので、個別性も大事にしながらお話をしていただきたい。
- グループ討議の２番目は同じ自治体で集まって、最初のグループでいろいろな自治体と交流したグループで出されたアイデア、検討したことを同じ自治体のメンバーで共有し、どうしたら自分たちの自立支援協議会で地域課題を抽出し共有できるかを考える。まず、自分たちが地域に戻って何をすればいいのか、まず、行うことを１つ設定する。
- 最後の全体会で、まずやること、なぜ最初にこれをやるかという理由を報告する。